

踏み跡 <My Mountains>

昭和44年3月13日

東京に大雪が降った。国立の自宅の周りでさえ30～40cmの積雪になった。偶然休暇を取ってあったので、家の周りの雪かきを済ませてから午後からぶらりと青梅線に飛び乗ってみた。一面の雪の原と化した立川基地、谷間の家々の屋根の雪、雪は景色を美しくしてくれる。軍畑12時20分着。ゆっくり家を出て昼過ぎから歩きだすのもたまには悪くない。昨日までの北陸を思わせるような重苦しい空模様とは打って変わって、春のような強い日差しに一面の雪が輝き美しい。平溝川に沿って里道を進む。傍らの梅を見やると、ある枝はすでに満開に近い状態になっている。あれほどの雪に襲われたにも関わらずパッチリと開いている逞しさには恐れ入る。寺の脇を起点（一合目）として、細い杉の林をゆるやかな登りが始まる。林の中は湿った雪が二尺ほど積もっており、時には腰を没する深さになることさえある。伏木峠への稜線に飛び出ると、御岳山、大岳山をはじめとした奥多摩の山々は勿論のこと大菩薩の山々も目に入ってくる。いずれも雪を付けて一段と大きく逞しく見えるが、中でも2000mの高さを誇る大菩薩連嶺にいたっては、南アルプス連山にも劣らぬ程の迫力が感じられる。高水山頂上常福院、駅から一時間半で到達。寺は雪かきで大わらわの状況。寺のおばさんと一言二言会話をしたが、予め抱いていたイメージとは違い全く情趣が感じられない。大雪に埋もれた小さな山の寺のおばさんらしい人間臭さが・・・と勝手に想像したのがいけなかった。帰りは、登りで付けた踏み跡をトレースしながら、左手に広がる関東平野を見下ろしつつのんびりと。景色を堪能しながらのゆっくりペースではあったが、40分ほどで軍畑駅に着いてしまった。

以上

